

合格力 UP 入試トライアル

ミニテスト体験

問題用紙

適 性 I

適 性 検 査 型 問 題

受験上の注意

- 試験時間は 25 分間です。
- 机の上には「筆記具」「消しゴム」以外のものを置いてはいけません。
- 指示があるまではこの問題用紙を開いてはいけません。
- 声を出して問題を読んではいけません。
- その他、監督の先生の指示に従ってください。

駒込中学校

文章1と文章2を読み、あとの問題に答えなさい。

問題作成の都合上、一部省略してあります。

(※のついている言葉には、本文のあとに「注」があります。)

## 文章1

なぜ「孤独」は嫌われ、遠ざけられるべきものとしてあつかわれるのでしょうか。

だれかと一緒にいても、みずからの心の内をよくよく覗き込めば、そこには孤独が広がっているものです。それが恋人だろうと夫婦だろうと家族だろうと、どんなにくつろげる相手といたところで、根本的に孤独は解消できない。

だからこそ、だれかと一緒にいたいと切実に思う。一緒にいても孤独は解消されないとかわっているのに、もっと一緒にいたいという思いが募る。それが人間の人間関係、世間というものの一面をなしているのだと思います。

人間は孤独なのだという前提を受け入れがたいのは、独りになることを過度に恐れたり、あるいは許せなかったり、さもなければ独りである自分はおかしいのではないかと疑心暗鬼になったりしてしまうからで、そうした圧力のような存在は、かつて長い間、引きこもりのような状態だったわたしからすればわからなくもない。

そもそも日本社会そのものが、ひとつの※共同体や同じ※価値観に属するのを強いていて、つまり孤立を※回避する力学で成り立っているのです、おのずと孤独には後ろめたさが伴うように仕向けられてもいるのです。

まず夫婦や家族という単位があり、それが互いに重なり合って、さまざまなサイズのコミュニティを形成しながら、より大きくて込み入った社会構造に至る。学校、サークル、会社、町内会、自治会、それらが寄り集まって※行政の地域区分をなし、その上位にある最大の単位が国家というわけです。

あなたは大小さまざまなコミュニティに属していて、基本的にはそのどれから

もはみ出すことは許されない。つまり価値観を共有しなければならない。孤独であってはならない。これが、圧力のような存在、と先に述べたものの正体なのではないか。

孤独であることは社会のシステム上、※忌避されている。しかし、人間は根本的には孤独です。わたしたちはそうした※アンビバレンツにさらされています。

もし、あなたがいま現在、引きこもっているとしたら、自分はどこまでも孤独なのだと、ことさらに思わなくていい。どうしたところで、人間は孤独なのだから。あなたはたまたま、そのことにはつきり気づいただけです。

また同時に、たとえば、孤独を強く望んだとしても、無数のコミュニティの輪から完全に抜け出すことは不可能です。

妙な言い方になりますが、あなたは孤独であり孤独ではない。もちろん、これは引きこもっている人にかぎらず、だれにでも当てはまります。

( 中略 )

いまの若い人にとって孤独とは、とても深刻な事態なのでしょう。孤独というものに強迫され、だから孤独を他人に悟られまいとSNSで活発な交流をはかる。独りではないのだとことさらに取り繕わざるを得ないのだとすれば、その毎日はかなりつらいはずだ。

若者たちの間に「ハブる」「ハブられる」という※造語があるそうで、「仲間外れにする」「仲間外れにされる」という意味らしいのですが、つらいにもかかわらず人とのつながりを懸命に保とうとする背景には「ハブられる」ことを恐れる気持ちがあるように思えます。

仲間外れ、つまり孤独になることは、当人とすれば人間関係全体の※崩壊を意味するのでしょう。年齢を重ねて付き合いが広がれば、いまいる場所とは価値観の異なる世界があることも想像できるのですが、若いときは狭い人間関係で完結しているのです、それは相当な衝撃になる。

でも、先に述べたように、①そもそも人間は孤独だし、同時に完全な孤独にも

なりえない。

ハブられたあなたが行き場を失ったように感じたとしたら、それは※錯覚です。独りになったことを、恥じたり、悲しんだりする必要はどこにもない。望むと望まざるとにかかわらず、あなたはどこかでだれかとつながっている。

友だちの数の多さや、場を盛り上げたり場に馴染むコミュニケーション能力を※重宝する風潮は、※過剰防衛の※虚しい反転にすぎません。そんなものはなくても立派に生きていける。独りになり、※陰口をささやかれ、後ろ指を指されようとも、気に病むべきではない。むしろ※同調圧力から解放されて、自分を顧みる機会を得たのだから、喜んでいいくらいです。

(田中慎弥「孤独論 逃げよ、生きよ」による)

## 〔注〕

推奨

思いが募る

疑心暗鬼

共同体

価値観

回避

行政

忌避

アンビバレンツ

造語

崩壊

錯覚

人にすすめること。

思いが強まり、おさえきれなくなる。

何もかも信じられなくなる。

血縁・地域など、なにかをもとにして結合している集団。

なにかに対してどういう価値を認めるかについてのそれぞれの人の考え方。

さげようとする。

実質的に国を治める。

嫌がってさける。

全く相反するものが同時に存在すること。

すでにある言葉を組み合わせたりして、新しい言葉を作ること。

くずれたり、こわれたりすること。機能を失うこと。

事実と違うようにとらえること。

重宝する

過剰防衛

虚しい

陰口

同調圧力

なにかにつけて役立てる。

必要以上に危害をふせこうとすること。

努力したのにおくわれることのない様子。

その人のいない場所で言うわるぐち。

多数派が少数派に意見・態度をあわせるよう強制すること。

## 文章2

皆さんは将来、何かの職業について仕事をすることになるでしょう。そうすると、※否認なしに、社会というものと今よりも深く関わって生きることになります。

そのときにいちばん大切だとぼくが思うのは、社会的な役割を生きる自分(ぼくはこれを「社会的な個人」と呼びます)と、性格や内面も含めた個人としての自分(こちらは「個人としての個人」と呼ぶことにします)を、きちんと分けておくことです。この両者を※一緒にしてしまうと、※はた迷惑ですし、自分も傷つくことが多くなってしまうと思います。

たとえば職場で、みんなが休んでいるときにわざわざ自分だけ働く、ということをする人がときどきいます。

本人は「自分はこんなに頑張っているんだ」ということで、いい気持ちになっているかもしれませんが、周りの人は迷惑します。

ぼくは、こういうことをやる人は、「社会的な個人」と「個人としての個人」をゴッチャにしていると思います。

仕事の間では「社会的な個人」として自分の役割を果たしていればそれでいいはずなのに、みんなが休んでいるときにまで、わざわざ一人だけ働くというのは、「個人としての個人」としても「頑張っている」「いいやつだ」と評価されたいという気持ちがあるからでしょう。

こういう人が職場に一人いると、ほかの人も同じように働かなくてはならない  
※羽目になることがあります。

※羽目になることがありますが、同僚は「余計なことをしないでくれよ」と言いたくなるのではないのでしょうか。

仕事というのは、ただやみくもに頑張ればいいというものではありません。

仕事の場で自分の人間性までを評価されようとする人は、頑張っていることそのものによって、他人を傷つけることがあります。

※仕事で役割を果たす自分と、取り替えのきかない個人として存在する自分を、理念の上できっちり分けて考える。それができていれば、仕事での評価と、人間としての評価をごちゃまぜにすることもなくなります。

この二つを※混同している人は、他人に対しても要求が高くなります。「自分はこんなに頑張っているんだから、お前もやれよ」というふうになりがちなのです。あるいは、自分ができもしないことを他人にやらせようとしたりします。

これはなにも仕事に限ったことではありません。

自分がやっていることがどんなに価値のあることであっても、それを「こんなにいいことなんだからお前もやれ」と押しつけたり、手伝わせたりするのは間違っています。

社会の中で役割としてしなければならないことと、一人の人間としての生活は、別のものであります。ですから、役割の中で評価されなかったり、傷つくことがあったとしても、あなたの人間としての価値が傷つくわけではないのです。

このことを若いときから理解しておく、これからの人生の中で不必要に傷ついたり、自分にできないことを他人に要求したりということが少なくてすむと思います。

「13歳のときに戦争が始まって、ぼくの10代はずっと戦時下にありました。

戦争中は「お国のため」ということが強調されたので、社会とか国家とかいこうばばかりに、どうしても意識がいついていました。その頃、自分がもし「社会的

な個人」と「個人としての個人」をきちんと※分離できていたら、どんなに楽しかったろうと思います。

戦争中のぼくは、社会の中での自分の役割と、個人的な内面を、ごっちゃにしています。だから戦争に負けて、社会ががらっと変わったとき、個人としての自分までが、立っている足もとの地面が揺らいで、この先どう生きていいかわからないような状態になってしまったのでしよう。

「社会的な個人」と「個人としての個人」を自然に分けるのは難しいことです。から、あくまでも理念として分離する※習練をしたほうがいいと思います。

自分の中で「これは社会的な個人の問題だから、役割は果たしておこう」「これは個人としての個人の問題だから、社会からどう言われたくない」と、はっきり区別する。そうすると、不必要に傷ついたり、自分が※分裂して悩んだりということが少なくなると思います。

(吉本隆明「13歳は二度あるか——『現在を生きる自分』を考える』による)

〔注〕

否応なしに

むりやりに。

一緒くた

ことなるものの間に区別をつけないこと。

はた迷惑

外側から見ると迷惑

羽目

追い込まれた苦しい状況。

理念

何を最高にするかを考えるときの、その人の根本的な考え方。

混同

分けるべきものを、同じように見てしまうこと。

分離

一つになっていたものから離れること。

習練

あることができるように訓練すること。

分裂

一つのものがいくつかにわかれること。

えてして

期待に反してそうなりやすいこと。

問題1 ①「そもそも人間は孤独だし、同時に完全な孤独にもなりえない」とあるが、どういうことか。文章1の中の言葉を使い、次の文章にあてはまるよう書きなさい。

人間はどれだけ親しい人と一緒にいても（ ① ）し、同時に、孤独を強く望んだとしても、（ ② ）だから

問題2 あなたは、これから中学校の中で友達とどのように付き合っていこうと思いますか。文章1、文章2のそれぞれの内容にふれながら、一五〇字以上、一八〇字以内で書きなさい。ただし、次の条件ときまりにしたがうこと。

条件 次の二段落構成にすること。

① 第一段落で、**文章1**と**文章2**、それぞれの内容にふれること。

② 第二段落で、①を踏まえ、大事にしたいことを書くこと。

きまり

○ 氏名・題名は書かないこと。

○ 最初の行から書き始めること。

○ 各段落の最初の字は一字下げること。

○ 行を変える場合は段落のみとします。会話文で行をかえないこと。

○ 、や、やゝが行の一番はじめに来る場合は、前の行の最後のます目に書きます。

○ 段落を変えた場合の残りのます目は字数として数えます。

○ 最後の段落の残りのます目は、字数として数えません。

解答 52

|      |
|------|
| 整理番号 |
|      |
| 氏名   |
|      |

|    |  |
|----|--|
| 得分 |  |
|----|--|

[illegible]